

人権作文に学ぶ



12月9日(土)、おりなす八女で開催した「スマイルフェスタ八女2023」で、市立学校代表の児童生徒が、それぞれの人権に対する思いを綴った作文を発表してくれました。今回はその中から、田中佑空さん(立花中学校3年生)の一遍を紹介します。

「全ての子どもたちの幸せのために」

「手も目も痛い。でも、もっと正しいことがある。それは他の子が学校に行っているときに僕だけは行けないってことなんだ。」

これは、ネパールに住む十歳のビシャルさんが言った言葉です。学校が嫌、勉強したくないと思うことが何回もある私は、環境に甘えすぎていると感じました。助けてもらえぬ環境に頼ってばかりで、どんどん楽な方へ流されています。それじゃダメなんだと気づかせてくれた言葉です。

「世界がもし百人の村だったら」と



いう本があります。その中には「一人が大学の教育を受け、二人がコンピューターをもっています。けれど、十四人は文字が読めません」と書かれています。私の身近には文字を読めない人はいなくて、パソコンを持っている人はたくさんいます。つまり、国によつての教育格差が激しいということです。私は、学びたくても学べない子のほうが多いという現実をあらためて実感し、学べることに感謝すべきだ、そしてそれだけでなく、世界中の子どもたちが学校に行つて正しい知識を得る機会があれば、苦しむ人達が減るのと思いました。そして「途上国」といわれる国に住む子どもたちの生活について調べてみました。

医療制度が整っていない国では、親が病気になるたり亡くなったりすると、代わりに子どもたちが働きます。最初に述べたビシャルさんは、大人でも危険といわれる採石場で、石をハンマーで叩き割って小さくする仕事をしています。手は傷だらけ、石の破片が目に入りながら一日中働いても、たったの七十円しかもらえませんが、また、タバコ工場や金属加工の工場など危険な場所で働く人が世界中に一億五千二百万人もいるそうで、日本の人口よりも多いと気づき、とても驚きました。

私たちは「先進国」といわれる国に生まれて、毎日あたりまえのように暮らせているけれど、日本の人口よりも多い人々が、何かしらでつらい思い、痛い思いをしながら毎日必死で生きているのです。小さい頃から危険な場所で働くなんてとんでもない、ちゃんとした教育を受けたうえで自分に合った職業や自分の好きな仕事に就くことがあたりまえの私たち。具合が悪くなったりけがをしたりしたら病院で治療をしてもらひ、衛生的な生活や予防接種などで病気にかからないうようにする社会で生きています。命は人権。守られるのは当然のことです。では、貧困はよその国の話で日本にはないのでしょうか？実際に私もそういうイメージをもっていました。でも調べていくうちに、日本の相対的貧困率は十五、六％で七人に一人が貧困といわれるということがわかりました。「相対的貧困」とは、最低限の生活をぎりぎり行えるが、金銭的に困っている状況のことです。そのため、進学ができなかったり、もしできたとしても十分に学べなかったりして教育格差が生まれるのです。そこからさらに格差が広がり、さらなる貧困につながって悪循環になってしまふのです。では、子どもの貧困はその家庭だけの問題なのでしょうか。私は、国全体、いえ、世界全体の問題だと考えます。その悪循環をとめなければ、ビシャルさんのような子どもたちが増える一方です。

日本では、さまざまな支援や対策が実施されています。私たち一人一人がそのことをちゃんと知り必要な支援制度をうまく活用していけば、貧困から抜け出す人が増え、悪循環も断ち切っていくのではないのでしょうか。

私は、ビシャルさんに出会って、原因やレベルや数に違いはあるけれど、どんな国にも貧困は存在するのだということがわかりました。国のしくみや文化、国民性など、その国に合った解決法を探していくことが大切だと思います。だからといって、ただ「与える」だけの支援では本当の解決にはなりません。与えることには限界があり、ずっと支援し続けることは困難です。生きるための知識や技術、一人でも十分に生活していけるように手伝いをすることが、求められている支援だと考えます。

みなさんは「子どもの権利条約」をご存じですか。54条のうち6条に「生きる権利／育つ権利」とあり驚きます。やわらかい布団に寝て、起きたら温かい朝食を食べて学校に行つ

お知らせ Infomation

▼人口と世帯(11月30日現在)

人口	60,073 (-187)
男	28,543 (-67)
女	31,530 (-120)
世帯数	25,701 (-127)
※ () 内は前月比	

▼11月の異動

出生	35人	死亡	95人
転入	160人	転出	287人

▼11月の火災・救急の状況

火災出火件数	3件	(31件)
救急出動件数	318件	(3519件)
救急搬送人数	305人	(3397人)

▼11月の交通事故の状況

人身事故発生件数	204件	(1141件)
傷者	267人	(1491人)
死者	2人	(6人)
※ () 内は1月からの累計		

1月に納めるもの

- 市県民税(4期)
- 国民健康保険税(7期)
- 後期高齢者医療保険料(7期)
- 介護保険料(7期)
- 住宅使用料(1月)
- 保育料(1月)

納期限・口座振替日
1月31日(水)

猫によるトラブルが増えています

飼い主のいない猫(野良(のら)猫)や外に出された飼い猫によるトラブルが増えています。特に、ふん尿の被害相談が多く寄せられています。市では野良猫を捕獲することはできません。飼い主のいない猫は、厳しい外の世界で生きていかざるを得なくなった被害者でもあります。飼い主のいない猫をむやみに増やさないためにも、エサをあげる際は、周囲への配慮と責任を持って行い、飼い猫は屋内で飼いましょう。

- 問い合わせ=環境課生活環境係(☎ 23・1462)

募集・催し・相談などさまざまな情報を掲載しています。詳細は市ホームページで確認、そのほかについてはお問い合わせください。

多世代交流事業 石窯で焼くピザ作り！

生地作りから行います。トッピングまで皆で楽しんで、熱々のピザを一緒に味わいませんか？



- 日時=1月20日(土)13時30分～15時30分
- 会場=多世代交流館「共生の森」
- 定員=12人【要申込み】
- 参加費=200円
- 問い合わせ=多世代交流館「共生の森」(☎ 22・2257)

110番防犯教室／八女警察署、福岡県警察音楽隊

「自分の安全は自分で守る」をキーワードに、自分自身の安全確保や高齢者を狙った犯罪から身を守る方法等を学びます。福岡県警察音楽隊による演奏を楽しみながら、ご自身の防犯意識を高めましょう。入場無料。

- 日時=1月23日(火)14時～
- 会場=おりなす八女
- 問い合わせ=中央公民館(☎ 24・8121)／東公民館(☎ 23・5276)／西公民館(☎ 24・5272)

福岡県地域住民・家族介護者向け認知症公開講座

- 日時=2月18日(日)14時～16時(開場:13時30分)
- 会場=九州大谷短期大学大谷講堂(筑後市蔵敷)
- 基調講演=「認知症と睡眠について」
- 講師=久留米大学神経精神医学講座教授 小曾根基裕先生
- 定員=300人程度(無料)※質疑応答、意見交換あり。
- 申込・問い合わせ=福岡県認知症医療センター植田病院(☎ 0942・53・5185)

て・・・そんな私たちにとっての日常があたりまえではない世界で生きる子どもたちがいることを忘れてはなりません。条項があるということ、そんな現実があるということなのでしょう。今の私たちにできること、それは、自分が置かれている環境に甘んじることなく、正しい知識を身につけていくこと、また、社会のしくみや世界の状況をよく知ること、そして自分の頭で考え、いろいろな人とつながりあうことだと思います。それが、平和な未来、

全ての子どもが遊び、学び、笑顔で暮らせる世界を目指して1989年に国連で採択された「子どもの権利条約」。その実現のために自分にできることを、私たち一人一人が身近なところから考えてみませんか。

一人一人の幸せにつながる道をつくることになるのではないのでしょうか。

一人一人の人権を大切に ～街頭啓発を行いました～



12月1日(金)、12月4日(月)～10日(日)の人権週間を前に、ゆめタウン八女店、Aコープ八女店、道の駅たちばなの3か所で街頭啓発を実施しました。市長をはじめ、市議会、人権擁護委員、法務局などの関係機関が参加し、店舗を訪れたお客さんへ啓発物品を配りながら、人権週間の周知と人権尊重思想の普及高揚を呼び掛けました。